**「神はすべてを益とされる」Ⅴ**

**ローマ８：２８**

**堀田修一　　　　２３・９・２４**

神を愛する人たち「（まず神に愛され、神の愛を信じ神の愛に感謝し神を愛する人たち）、すなわち、神の御計画にしたがって召された人たち（神の招きにより、主を信じた人たち）のためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています」ローマ８：２８

パウロがローマ人への手紙を書いたのは、様々な問題や葛藤をかかえる人々を助けるためでした。

Ⅰなぜ「神を愛する人たち」のためが先にあるのか。

１．なぜパウロは、「神を愛する人たち」のためにと記すのか。それは、「神に反抗する」生まれながらの人と、「神を愛する」キリスト者との対照を引き出すためである。愛に何が含まれるか、何を表すか理解しておく必要がある。「神を愛する」とは、単なる感傷や感情の問題ではない。愛は実際的である。ここで落とし穴がある。悪魔は、「お前には、神を愛する愛はないではないか」と責める。しかし、ここで覚えたいのは、私たちは、自分の力では神を愛することはできないという事実である。神を愛する愛を心に結ばせてくださるのは、主を信じる人の心に宿られる御霊なる神である。「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です」ガラテヤ５：２２，２３。「神を愛する」とは、まず神が私たちを愛し、主イエスを世に送り、私たちの罪のために十字架で死なれた主を信じ救われ、御霊が心に宿られ、御霊によって神の大きな愛を知り、感謝し、御霊の実である愛によって神を愛することである。

２．人が神を愛しているかを判断できるのは、逆境に対するその人の反応である。あらゆる苦境の中で、私たちの心におられる御聖霊は私たちを助け、私たちに神を信頼する信仰を与え、次のような応答を助けてくださる。「私は偉大な神の御手の中に存在し、神はご自分が何をされているかご存知である。主の御名はほむべきかな。私は理解できないが、神が愛であられることは分かっている」と。一切合切が不利に思われ、あらゆる点で神が自分を愛している事実と反するように思われるときにも神を信頼し愛し続けることを、内住の御霊は助けてくださる。

３．私たちが「神を愛する」ということは、私たちが、まず神に愛されていることの証拠である。

「私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです」Ⅰヨハネ４：１９。まず私たちを神が愛されなかったら、私たちが神を愛することは不可能。自分が神を愛していることに気付くとしたら、それは神が大きな愛でまず自分のことを愛しておられるという絶対的な証拠です。どのような人も、まず最初に神から愛されなければ、決して神を愛することはできなかった。それ故、神がまず私たちを愛しておられる事実の証明として、自分が神を愛しているのなら、次のように確信して良い。まず神に愛され、神の愛に感謝し神を愛している私たちのためには、あらゆることが神によって上から支配され、私たちの益になり、私たちの究極的な栄光（主の姿への栄化）のためになると。

Ⅱ「神を愛する人」の後の「神のご計画（原語：企て、計画、意図、決心）にしたがって召された人たち」の意味。

１．この「召し」（原語：呼び寄せること、招き、召し）こそ、なぜ人々が神を愛しているかを説明する唯一の理由です。「肉の思いは神に対して反抗するものだからです。それは神の律法に服従しません。いや、服従できないのです」ローマ８：７。このような私たちが今、神を愛しているのは、「神のご計画にしたがって召された」からです。福音を一度でも聞いたことのある人はみな、福音の「召し（招き）」を聞いたことになる。福音はあらゆる人々に宣べ伝えられるべきです。主は言われた「招待されるものは多いが、選ばれる者（救いの招きを受け入れる人）は少ないのです」マタイ２２：１４。「神は…どこでもすべての人に悔い改めを命じておられます」使徒１７：３０。これは、すべての人に対する救いの招き。例外はない。しかし、救いの招きを受けるすべての人が、主を信じるわけではない。聖書の「使徒の働き」にも救いの招きを受ける人と拒否する人がいることが明確に記されている。世界中のキリスト者は、福音を伝えても、ある人は主を信じ、ある人は主を信じない反応があると体験的に知っている。同じ救いの招きを耳にしたのに違いがある。

２．そこで本日、改めて感謝したい。私たちは、福音を聞いても拒否する可能性が十分あったのに、主を信じている奇跡を！その救いをいただく信仰でさえ、三位一体の神からの恵み、賜物、プレゼントです。「恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です」エペソ２：８。「聖霊によるのでなければ、だれも『イエスは主です』と言うこと（信仰告白）はできません」Ⅰコリント１２：３。私たちは、神の救いの召し、招きを受け、主を信じ歩んでいる自分に驚きを感じているでしょうか。自分の力では、神の召し、救いの招きに応じ主を信じることは不可能だったことを認めているでしょうか。その罪人のかしらの私たちが、現在、主を信じ主とともに歩んでいるのです。パウロの言葉を自分に適用して深く味わいたい。「神の恵みによって、私は今の私になりました。そして私に対する神の恵みは無駄にはならず、…多く働きました。働いたのは私ではなく、私とともにあった神の恵みなのです」Ⅰコリント１５：１０。※証し。

Ⅲ「神のご計画にしたがって召された（招かれ主を信じ救われた）」

神は、私たち一人一人の全生涯に最善のご計画、支配、導きを持っておられることを心から感謝したい。

１．神は私たちに命、体を与えられ、ずっと導いておられる。「あなたこそ　私の内臓（人格の中

心）を造り　母の胎内で私を組み立てられた方です。私は感謝します。あなたは奇しいことをなさって恐ろしいほどです。私のたましいは　それをよく知っています。私が隠れた所で造られ地の深い所で織り上げられたとき　私の骨組みはあなたに隠れてはいませんでした。あなたの目は胎児の私を見られあなたの書物にすべてが記されました」詩篇１３９：１３－１６。アダムだけでなく、すべての人の造り主、神。

「母の胎にあるときから私を選び出し、恵みをもって召してくださった神」ガラテヤ１：１５。パウロだけではなく、私たちも！感謝します。神が計画し選んで与えられた親を感謝します。その親なしに私たちは存在していないのです。完全な親はいない。私たちも完全ではない。それでも、人の誕生には神の深いご計画があります。私は、このみことばの真理を知って、人生観が変わりました。「どこにおいても主を認める（箴言３：６）人生」へ。一つ一つを神に感謝する人生へ。試練や悩みはある中でも。

２．私たちが生まれた場所（どこの国、都道府県）、家庭（クリスチャンホームかそうでないか）も生まれる時代にも神のご計画があった。私たちは自分で選べない。何一つ偶然はない。すべては神の計画。

「神は一人の人からあらゆる民を造り出して、地の全面に住まわせ、それぞれに決められた時代と住まいの境界線をお定めになりました。それは、神を求めさせるためです」使徒１７：２６，２７。※証し

３．生まれてからのすべての出来事、人々との出会いにも神のご計画がある。神は、私たちの身に起こる出来事、悩み、試練、出会いを用いて主の教会、伝道の集会に導き、「神のご計画にしたがって召された」私たちを救いに招き救われた。神は私達の人生を神のご計画にしたがってスタートさせてくださり、人生のすべての出来事を用いて神の召し、招きに応じて主を信じる信仰を与え、救ってくださり感謝します。主を信じた後の人生の苦しみ、悩み、試練もすべて支配し、すべてとともに働き益（主の品性に変えられ続ける成長）とし続けておられること、イエス様を与えるほど愛されている神の愛を感謝します。